

○9番（菊池伸也議員） 9番菊池伸也です。ただいま議長から発言のお許しをいただきましたので、通告に従い質問をいたします。

最初に、1の観光振興についてであります。本市において観光産業はまちおこしの起爆剤であると言っても過言ではないと思います。国内の観光業者へのPRはもちろんですが、茨城空港を利用する外国人をターゲットにした取り組みを県の関係部局と連携しながら中国関係旅行事業者をはじめ諸外国のインバウンド取り組みに係る旅行業者等との関係強化やホームページ、ブログ、SNS等での情報発信の強化にも努められていることも承知しております。

既に今年の元旦に取り組みされたベトナムから茨城空港へのチャーター便で来日されたツアー客200名を竜神大吊橋へ招くなどの取り組みや今年の4月23日にはマレーシアからのインセンティブツアーで来日された100人の皆さんがバンジージャンプを体験されるなど、少しずつ結果が出てきております。また、受け入れ態勢についても既にスマホのキャッシュレス決済端末が水府観光物産センター内に導入されており、小型翻訳機なども配置されていることは大変にすばらしい取り組みであると思っています。

そこで、県内外のお客様はもちろんのこと、インバウンドの方々にも常にご満足いただけるような内容のご検討をしていただけますように（1）の観光客誘客の取り組みについて4点お伺いいたします。

最初に、①竜神大吊橋のさらなる魅力アップに係る取り組みについてお伺いいたします。

以前にも申しあげましたように、竜神大吊橋においては四季型イベントとして春の鯉のぼりまつり、夏の灯ろうまつり、秋の紅葉まつり、冬の蕎麦まつり等のイベントに力を入れてきました。現在は観光発展の引き金にもなっているバンジージャンプをバンジージャパンとの協定のもと実施されており、バンジージャンプを好むお客様方が本市の竜神大吊橋を訪れ楽しんでいることは承知しております。

そこで、さらなる魅力アップのためぜひとも取り組んでいただきたいと思っていますのがジップラインであります。ジップラインとは、森の中に張ったワイヤー滑車で滑りおりていき、絶景を楽しめ、スリルを味わえる世界的にも人気のあるアクティビティです。日本でも徐々に人気が出てきておりジップラインが楽しめる施設も増えてきています。大自然の空中散歩は今までにない爽快感が味わえると思います。このジップラインの設置を新たな魅力の一つとして検討し、ぜひとも実現していただきたいと思いますが、執行部のお考えをお伺いいたします。

次に、②竜神ふるさと村及び竜の里公園の利用計画についてお伺いいたします。以前にグリーンライン武生線が完成したときには竜神ふるさと村への道路の拡幅工事を優先して検討していただくご答弁をされていましたが、ふるさと村に対する思いと今後の利用計画についてお伺いいたします。

また、竜っちゃん乃湯のすぐ側の竜の里公園の利用についても静かなブームとなっているキャンプ愛好者の要望に応えるべく、利用計画をオールシーズンで対応するべきであると思いますが、執行部の考えをあわせてお伺いいたします。

次に、③竜神ダム湖でのカヌーやサップ等の体験の状況についてお伺いいたします。

平成29年度と比較して昨年度の実績と今年の10連休での実績はどのような状況であったのかお伺いいたします。

また、ダム湖上流左岸に休憩スペースの設置を検討する旨をお伺いしましたが、どのように検討されたのかあわせてお伺いいたします。

また、カヌーやサップ等のお客様がいかにか竜神カフェを利用するかなどもお考えであると思いますので、あわせてお聞かせ願います。

次に、④観光振興に必要な道路整備については、特に観光拠点までの主要なアクセス道路となる国県道の整備についてお伺いします。

先ほど申し上げました竜神大吊橋での四季を通じてのイベント時などに県内外から多くの観光客のバスや車で大渋滞が発生しており、これまで県議会、市議会でも何度か取り上げられております。これらの対策として観光拠点のアクセス道路と言えます国道461号、県道常陸太田大子線、日立山方線では既に改良事業に着手されており、数年後にはかなりの改善が見られ、今よりもさらなる観光振興が図れるものと地元でも大いに期待しているところであります。

国道461号については、長年の懸案でありました北沢峠の箇所につきまして、先日トンネル工事の起工式が行われ私も同式に出席させていただきましたが、令和2年度末の完成を目指しておかげさまをもちまして順調に進められていると伺っております。

そこで、残りの2路線、常陸太田大子線、日立山方線における事業の進捗状況と今後の見通しについて、また、これらの事業に対する市の取り組みについてお聞かせ願います。

続いて、(2)スポーツ振興策についての(1)高齢者のスポーツ振興について質問をいたします。

超高齢化社会を迎えるに当たり、市民が生き生きと元気で生活できるようにしていくためには、常に健康診断などで自己管理をし、スポーツなどを楽しむと同時に地域の人々との交流を図りながら日常生活を送ることに留意しなければいけないと思います。

そこで、①の高齢者のスポーツと健康管理については、どのように考えているのかお伺いいたします。一般的に高齢者のスポーツという代表的な種目はゲートボール、クロッカー、グラウンド・ゴルフなどが挙げられると思います。この中でもグラウンド・ゴルフ競技を楽しまれる方が多いように思います。この競技種目のスポーツ人口が市内全域でどのくらいいるのかお聞きいたします。

また、これから人生100年の時代を迎えるようになるとテレビなどでも報道されております。このような中、生涯現役でスポーツを楽しむことは素晴らしいことであると思います。そこで、競技する場所の提供については、どのようなお考えのもと提供されているのか、また、体調管理の指導などもされているのか、あわせてお伺いいたします。

次に、②の運動機能向上のためのシルバーリハビリ体操や認知機能向上のためのスクエアステップの取り組み状況についてお伺いいたします。

体の運動機能低下や認知機能の低下を防げるのであれば素晴らしい取り組みであると思います。これらの指導士の方々はそれぞれボランティアで各地域の自主教室を回り指導にあたられている

わけですから、受講者の皆さんは一同に感謝をされております。

そこで、市内でどのくらいの人数の指導士が現在どのような資格を持って活動されているのか、また、教室の数と受講者数は全体でどのようになっているのかお伺いいたします。

次に、③のスポーツ環境の整備についてですが、ここでは海洋センターグラウンドの利用に特定してお聞きいたします。このグラウンドは従来スポーツ少年団の野球や公民館主催のソフトボール大会などに利用されてきましたが、最近は少子・高齢化の影響もあり、活用される機会が減少しています。現在海洋センターのグラウンドでは毎週のようにグラウンド・ゴルフを楽しまれる方々を数多く見受けられます。このグラウンドでは、水府地区全体の公民館の大会をはじめ、各地区などの大会、同好会の皆さんの大会等も開催されておりますが、大変に狭くて、参加者が多いときにはコースの設定やプレーをするときに少なからず苦勞をされているようです。

グラウンド・ゴルフの代表者の方々は、もっと大きな大会を開催したいとそれぞれの代表者の方が言われております。超高齢化社会を迎えてもいつまでも健康でグラウンド・ゴルフを通じて人々の交流ができる喜びを感じていただいけるような場を提供できないものかどうかお伺いをいたします。

以上で、1回目の質問を終わります。

○高星勝幸副議長 答弁を求めます。商工観光部長。

〔小瀧孝男商工観光部長 登壇〕

○小瀧孝男商工観光部長 観光振興における観光客誘客の取り組みについて、3点のご質問にお答えいたします。

まず、1点目の竜神大吊橋のさらなる魅力アップに係る取り組みについてでございますが、昨年9月議会の答弁において申し上げましたとおり、現在奥久慈グリーンライン林道が令和5年の完成を目途に整備が進められております。市としましてはその進捗状況に合わせまして、竜神ふるさと村へのアクセス道路の整備をまずは優先して取り組みたいと考えているところでございます。

議員提案のありました竜神大吊橋を渡った対岸の山への展望台設置や今回のジップラインにつきましては、今後竜神大吊橋と竜神ふるさと村を核とした竜神峡エリアの各施設の活性化を図り、誘客拡大及び竜神エリアの回遊性向上を図れるよう総合的な検討をしてみたいと考えております。

2点目の竜神ふるさと村及び竜の里公園の利用計画についてでございますが、竜神ふるさと村につきましては、コテージ4棟、バンガロー3棟、宿泊棟5棟、バーベキューハウス、ローラーライダーなど最大79名が宿泊でき、設営の手間がなく初心者でも手軽にキャンプを味わえる施設であります。

昭和58年に建設され築35年が経過しておりますが、定期的なメンテナンスを図り景観を生かした竜神エリアの滞在型観光の核となる宿泊施設と位置づけ、誘客拡大を推進してみたいと考えております。

また、竜の里公園につきましては、藤田議員のご答弁でも申し上げましたが、近年オートキャ

ンプでのリピーターが増えていることにより、平成30年度の利用者は前年度比539人増の2,556人となるなど年々利用者が増えている状況にあります。日本オートキャンプ協会のオートキャンプ白書2018によりますと、2017年のオートキャンプ参加人口は840万人となり、5年連続で前年を上回るキャンプ需要となっている状況であります。

また、昨年実施したインバウンドにおけるモニターツアー参加者やインフルエンサー等の外国人の方々もキャンプに対しての関心が高かったことなどから、現在冬期閉鎖している竜の里公園ですが、オールシーズンでの営業を含めた管理運営について、施設管理者の水府振興公社と協議を図ってまいりたいと考えております。

3点目の竜神ダム湖でのカヌーやサップ等の体験の状況についてでございますが、平成30年度のカヌー等の体験者数は922人で前年度比82人の増でありました。内訳はカヌー486人、ボート386人、サップ50人となっております。

なお、今年のゴールデンウィーク10日間の体験者数は128人で、昨年同時期の10日間と比較しますと14人の減となっております。竜神ダム湖上流右岸の休憩スペース設置につきましては、浮棧橋と3人掛けの丸太イス3基を本年5月に設置し、カヌー等でしか行けない新たな魅力の創出を図ったところでございます。

また、この休憩スペースにおいてコーヒー等を飲みながら景観が楽しめますことから、竜神カフェではテイクアウト用コーヒー等の提供に取り組むなど誘客拡大を図っているところでございます。今後につきましても、水府振興公社と連携を図りながら誘客促進に努めてまいります。

○高星勝幸副議長 建設部長。

〔真中剛建設部長 登壇〕

○真中剛建設部長 観光振興に必要な道路整備についての県道常陸太田大子線と日立山方線における事業の進捗状況と今後の見通し、また、これらの事業に対する当市の取り組みについてのご質問にお答えいたします。

ご質問いただきました常陸太田大子線と日立山方線の道路整備はいずれも茨城県事業でございますので、当市が道路管理者であります茨城県との協議調整の中で伺っている範囲内でお答えさせていただきます。

まず、常陸太田大子線につきましては、茨城県では観光振興を支援する道路事業として下高倉町、天下野町の竜神橋、天下野町の竜神大吊橋入口交差点、同じく天下野町の桜沢大橋の3カ所をボトルネック箇所として拡幅事業を進めております。

竜神橋におきましては、今年度は道路拡幅工事を行い、来年度に旧橋梁の撤去工事を行うことで完了するとのことでございます。

竜神大吊橋入口交差点におきましては、昨年度に暫定で北方向から吊橋方向への右折レーンを設置いたしました。

続いて、平成30年度3月補正予算等を活用し、今年度は南方向から吊り橋への左折専用レーンを増設するための測量調査を行い、一部設計に着手するとのことでございます。

なお、桜沢大橋におきましては竜神橋の完了後に事業に着手する予定とのことでございます。

次に、日立山方線についてでございます。

この道路の県の事業上の位置づけは、観光振興としてではなく東染町において染川と近接し、急カーブとなっている箇所を解消する局部改良事業として全体延長470メートルのうち残り340メートルの工事を今年度を実施し、完了すると伺っております。

なお、この日立山方線は中染町などにおいても幅員狭小の箇所があるため、地元町会等と意見調整を行った上、事業の継続の要望を行えればと考えております。

最後に、事業への当市の取り組みとしましては、近隣市町村と連携した各路線の整備促進協議会、また、県の土木企業委員会の要望活動や茨城県市長会での県政要望などにおきまして、これらの国県道整備の必要性を機会あるごとに国や県に説明、働きかけを行っているところでございます。

○高星勝幸副議長 教育部長。

〔生天目忍教育部長 登壇〕

○生天目忍教育部長 スポーツ振興策について、高齢者のスポーツ振興についてのうち2点のご質問にお答えいたします。

初めに高齢者のスポーツと健康管理についてでございますが、ここ数年の本市の高齢者等のスポーツはニュースポーツ言われますグラウンド・ゴルフやスポーツウエルネス吹矢等が人気となってきております。中でもグラウンド・ゴルフは市内全域において愛好者が急激に増えてきております。平成29年5月時点の市内老人クラブ会員の中でグラウンド・ゴルフ愛好者は754名とのことですが、昨年夏に開催いたしました第1回市長杯市民グラウンド・ゴルフ大会においては参加者が461名にのぼり、大きな大会としてスタートしたところです。

また、先月実施されました健康スポーツチャレンジデーにおいて開催いたしました第5回常陸太田ライオンズクラブ杯グラウンドゴルフ大会参加者は523名でございます。現時点では競技人口の把握には至っておりませんが、これらを推定いたしますとおおむね千名ほどの市民の皆様が楽しまれているものと思われまます。このようなことから、市民の皆様が楽しく継続的にスポーツに親しみ、健康寿命の延伸等を図るため、太田地区の山吹運動公園運動広場、金砂郷地区の大方運動広場、水府地区の天下野運動公園及び里美地区の里美運動公園にグラウンド・ゴルフも利用可能な多目的スポーツ施設を管理運営し、ご利用いただいております。

また、地域スポーツの普及のために学校教育に支障がない範囲で市立小中学校施設の開放も行っているところです。

施設等をご利用いただく際の体調管理の指導につきましては、各種大会においてAEDの貸し出し及び夏場の熱中症対策としての熱中症指数計や水分補給用容器等の貸し出しを行うとともに体調管理の注意喚起を行っております。

続きましてスポーツ環境の整備についてでございますが、水府海洋センターに隣接しております天下野運動公園は多目的な利用を目的に整備された運動広場でございます。現在は主にスポーツ少年団の学童野球やグラウンド・ゴルフに利用されております。

グラウンド・ゴルフのコースの設定は公益社団法人日本グラウンド・ゴルフ協会が規定してお

ります認定コースの基準では8ホールを単位とする標準コースがとれ、コース面は芝、人工芝、土、砂のいずれかでも可能であるとのことです。

天下野運動公園内におきましては、標準コースが2コース以上設定することができると考えておりますので、松平運動公園や旧水府小学校グラウンド等を合わせて利用される皆様の創意工夫により有効活用し、大会等を開催していただければと思います。

グラウンド・ゴルフは簡単なルールでいつでもどこでも誰でも楽しめるスポーツとして普及が進んでおります。本市におきましても今後ますます愛好者が見込まれますことから、生涯スポーツとして快適なプレーが楽しめますよう引き続きスポーツ施設の適正な管理運営に当たってまいります。

あわせて、本年度策定を進めておりますスポーツ施設整備計画においても検討してまいります。

○高星勝幸副議長 保健福祉部長。

〔岡部光洋保健福祉部長 登壇〕

○岡部光洋保健福祉部長 高齢者のスポーツ振興についての運動認知機能向上のためのシルバーリハビリ体操やスクエアステップ運動の取り組み状況についてのご質問にお答えいたします。

当市におきましては高齢者の皆様が元気で生き生きと生活が送れるよう介護予防の取り組みといたしまして、シルバーリハビリ体操とスクエアステップ運動の推進を図っているところでございます。

まずシルバーリハビリ体操についてでございますが、平成17年度より茨城県におきまして高齢者の生活能力を維持し、また、地域の介護力を高めることをねらいとし、県内各地域に普及を進めている体操でございます。当市におきましては平成18年度から取り組みを進めているところでございます。

体操の指導に当たるものとしたしましては、おおむね60歳以上の方を対象として茨城県や市主催の講習を受講し、1級、2級、3級の資格を取得された方がシルバーリハビリ体操指導士として市内各地域で介護予防、リハビリ体操の普及活動に当たっておりまして、3級指導士の活動へのリーダーを2級指導士が、2級と3級指導士の養成を1級指導士が行うこととしており、指導士間での養成機能も担っているところでございます。

現在当市のシルバーリハビリ指導士会には185名の方が所属しており、級別に申し上げますと1級指導士が4名、2級指導士が89名、3級指導士が92名でございます。市内各地域の普及活動に尽力をいただいております。これらの指導士のご協力をいただき、市主催の教室を常陸太田地区、金砂郷地区、水府地区、里美地区の4地区ごとに主に体操の普及がままならない箇所や受講者が少なくなっている地域におきまして徒歩で参加できる会場での教室を開催することにより新規受講者の発掘に努めておりまして、平成30年度におきましては計30回開催し、延べ286人の参加をいただいております。

また、シルバーリハビリ指導士会の団体としての自主普及教室を行っており、平成31年3月現在の教室数は88カ所でございます。平成30年度は全2,144回の開催があり、参加者は

延べ2万4,378人となっております。年々教室数と開催数が増えている状況でございます。

このような中におきまして指導者の高齢化に伴う退会という状況もございまして、シルバーリハビリ体操指導士の養成にもあわせて力を入れておりまして、毎年養成講習を開催し、指導士の確保に努めているところでございます。

今後におきましても指導者の確保を図りますとともに体操の普及促進に努めてまいりたいと存じます。

次に、スクエアステップ運動についてでございますが、この運動は平成28年度より取り組みを進めているものでございまして、歩く脳トレ運動とも言われ、転倒予防や認知機能向上の効果があるエクササイズでございます。

この運動の指導に当たるリーダーの養成につきましては、NPO法人スクエアステップ協会への委託によりリーダー養成講座を開催しておりまして、この養成講座の受講により現在70名の方がリーダーの資格を取得し活動を行っているところでございます。このうち上位資格の指導員を有しておりますのは5名となっております。さらにはリーダーの技術向上を図ることを目的に毎年スキルアップ研修会も実施しており、リーダーの確保に合わせ内容の充実も図られるよう推進をしているところでございます。

市主催の普及促進を図る事業といたしましては、これらのリーダーで組織しております常陸太田スクエアステップリーダー会へ委託をし、市内4地区においてスクエアステップ教室を開催しておりまして、平成30年度におきましては4地区で計60回開催し、延べ587人の方の参加をいただいております。

また、市主催の教室とは別に公民館や集会所などを利用して自主活動を行うグループも年々増えている状況でございまして、平成30年度は28の自主活動グループにおきまして計501回、延べ8,767人の方が活動に参加されているところでございます。

参加者の皆様からはシルバーリハビリ体操スクエアステップ運動の活動を通しまして運動を継続して足が上がるようになった、肩凝り、腰痛が楽になった、友達ができた、楽しいので継続したいなどの意見をいただいております。団体や指導者にとりましても活動の後押しとなっているところでございます。

市といたしましては、今後も引き続き指導者の養成と各団体、指導者との連携協力を図りながらこれらの取り組みの拡充を図ってまいりますとともに市民の皆様が参加しやすい環境づくりに努め、より多くの方に参加をいただくことによりまして健康寿命の延伸につなげてまいりたいと存じます。

○高星勝幸副議長 菊池伸也議員。

〔9番 菊池伸也議員 質問者席へ〕

○9番（菊池伸也議員） ただいまは詳細なご答弁ありがとうございます。

2回目は要望のみにとどめておきたいと思っております。

（1）の観光振興についての観光客誘客の取り組みについて、①竜神大吊橋のさらなる魅力アップに係る取り組みについては、昨年9月での質問のときよりかなり踏み込んだご答弁であると

感謝をしております。

竜神大吊橋、竜神ふるさと村を核とした誘客の拡大や竜神エリアでの回遊性の向上を図れるようジップラインの導入も含めた総合的な施設整備をご検討するということではありますが、さらに要望としまして、眺望が大変すばらしくアップダウンのある奥久慈グリーンラインの全面開通をしましたときには竜神ふるさと村を拠点とし、サイクリングや自転車ロードレース等のイベント計画なども検討に加えていただければさらなる魅力アップを図れると考えておりますので、ご検討を要望しておきます。

②の竜神ふるさと村及び竜の里公園の利用計画について及び③の竜神ダム湖でのカヌーやサップ等の体験の状況については、理解をいたしました。

次に、④の観光振興に必要な道路整備についてであります。県道常陸太田大子線、日立山方線の状況計画については、理解をいたしました。ぜひ一日も早い完成をお願いいたします。

また、要望にとどめておきますが、今申しあげました道路に加えまして、和田交差点から芦間町に抜ける県道和田上河合線の狭隘部の拡幅工事に対しましても、地元町会長さんや市から既に要望書が出されております。できますればこの箇所も一連で進めていただければさらに効果が上がるのではと思います。

執行部としては対応すべき箇所がたくさんありご苦労されるとは思いますが、1回目の質問でも申しましたように、当市が今後より元気なまちとして維持していくには観光産業が欠かせない事業でありますし、それにはアクセス道路の整備が欠かせないということは言うまでもありません。どうぞよろしく願いいたします。

続いて2のスポーツ振興策について、(1)の高齢者のスポーツ振興について①高齢者のスポーツと健康管理について及び②の運動機能向上のためのシルバーリハビリ体操や認知機能向上のためのスクエアステップの取り組み状況については、理解をいたしました。

③のスポーツ環境の整備についてであります。通常海洋センターのグラウンドと言っております天下野運動公園のことですが、先ほど申しましたとおり、水府地区全体のソフトボール大会や各地区ごとのソフトボール大会が開催されておりました。また、スポーツ少年団の野球の練習などにも使用されております。現在はグラウンド・ゴルフを楽しまれる方々が使用されるのが圧倒的に多いと思われまます。

このグラウンドには、先ほどの答弁の中でも8ホールの公認コースが2コース設定できることは理解しております。このグラウンドの金網フェンスについては、昨年整備したばかりということなので、先日のチャレンジデー参加の折りグラウンド・ゴルフのときに確認をし理解をいたしました。ただし、グラウンドのコンディションから言いますと、山砂に交じって碎石のようなものが多数入っているように感じられます。グラウンド・ゴルフでの転倒は考えられませんが、スポーツ少年団の野球等の練習や試合等では転倒によるけがなどの想定もされますので、そのようなことを防ぐためにもできれば山砂の入れかえ等の検討も含めてスポーツ施設整備計画の中で地域に合ったご検討をされることを要望しておきます。

以上で私の一般質問を終わります。